

ワイヤレス・コネクティブティ関連ソフトで成長

S Med i o 田中 俊輔 代表取締役社長に聞く

S Med i o (3913・東証)は「ワイヤレス・コネクティブティ」関連ソフトウェアなどを手掛ける。同社の田中俊輔社長に成長戦略などを聞いた。

事業内容をお聞かせください。

「世界市場で通用するソフトウェア専門企業を目指し2007年に創業。グローバルスタンダードに準拠した「開発はアジア、市場は世界」のコンセプトでアジアを代表するソフトウェア企業を目指している」

「近年、伸びているのが『ワイヤレス・コネクティブティ』関連ソフトウェアだ。スマートフォン

フォン(スマホ)、タブレット端末、パソコン、テレビなど、さまざまな機器を無線で接続してデータを伝送するソフトウェアで、例えば、『スマホの画面をテレビに映し、スマホをゲームコントローラーの代わりにしてテレビ画面でスマホゲームを楽しむ』『リビングに置いたテレビやブルーレイレコーダーに録画した番組や放送中の番組を、ベッドルームに持ちこんだタブレット端末で見る』『パソコンに保存している契約書や力タロクなどコンテンツを、外出先のスマホやタブレット端末にダウンロードする』といったことを実現するもの。当社製ソフトウェア

年率40-50%増益目指す

アは東芝、富士通のパソコンやタブレット端末、シャープのブルーレイレコーダー、マイクロソフトのハードウェア機器などに搭載されており、搭載端末の出荷台数に応じてライセンス料を得ている。

――強み。

「ワイヤレス・コネクティブティ関連ソフトを開発・製品化するための要素技術(メディア処理技術、著作権保護、および認証技術、無線通信技術)をすべて習得済みであることが強み。また、OSとつ取っても、ウィンドウズ、リナックス、アンドロイド、iOSなどいろいろなあるが、異なるOSが搭載された端末同士でもデータをスムーズに伝送する技術力も強み。こうした技術力を背景に、近くにある端末同士をつなぐ近接接続から、遠くにある端末をつなぐ遠隔接続まで、接続距離に応じて

さまざまなソフトウェアをそろえている」

――成長戦略。

「電子部品や半導体などの市場調査を行うSupplierによると、ワイヤレス・コネクティブティ機能搭載端末(携帯電話を除く)の販売台数は、14年の100万台超に対し、15年は200万台弱、16年は300万台、17年に400万台超、18年には500万台超と急成長が見込まれている。こうした中、現在注力しているパソコン、タブレット端末、スマホ向けに加え、今後はIoT端末向けやウェアラブル端末向けも展開していく」

――今15年12月期の業績見通し。

「今12月期は売上高12億2800万円(前期比25%増)、営業利益3億1600万円(同59%増)、経常利益3億100万円(同1%減)を見込む。経常利益は微減予想だが、これは前期経常利益が円安に伴う為替差益発生で押し上げられたため」

――足元業績の動向。

「順調だ。第1四半期(1-3月)は売上高3億3900万円(前年同期比22%増)、営業利益1億600万円(同22%増)、経常利益9900万円(同8%増)となり、想定を上回る滑り出し。通期計画に対する進捗(しんちよく)率は売上高で28%、営業利益では34%となっている。製品別では「True Link+」「TV Suite」などが想定よりも販売好調で、第1四半期の売上高は計画を20%上回った」(Q)

――IoT端末・ウェアラブル端末向けも展開へ

「ワイヤレス・コネクティブティ関連ソフトウェアのダウンロード型販売や月額課金型販売にも今期後半から積極的に取り組む。ワイヤレス・コネクティブティ製品が搭載されていない端末を使っている人も、ダウンロードすることで機能を追加できる。また、レボ、ファウェアなどの成長性も無視できず、今後は中国などアジアの端末メーカーにも搭載を働きかける。



「近年、伸びているのが『ワイヤレス・コネクティブティ』関連ソフトウェアだ。スマートフォン

フォン(スマホ)、タブレット端末、パソコン、テレビなど、さまざまな機器を無線で接続してデータを伝送するソフトウェアで、例えば、『スマホの画面をテレビに映し、スマホをゲームコントローラーの代わりにしてテレビ画面でスマホゲームを楽しむ』『リビングに置いたテレビやブルーレイレコーダーに録画した番組や放送中の番組を、ベッドルームに持ちこんだタブレット端末で見る』『パソコンに保存している契約書や力タロクなどコンテンツを、外出先のスマホやタブレット端末にダウンロードする』といったことを実現するもの。当社製ソフトウェア

「今12月期は売上高12億2800万円(前期比25%増)、営業利益3億1600万円(同59%増)、経常利益3億100万円(同1%減)を見込む。経常利益は微減予想だが、これは前期経常利益が円安に伴う為替差益発生で押し上げられたため」

――足元業績の動向。

「順調だ。第1四半期(1-3月)は売上高3億3900万円(前年同期比22%増)、営業利益1億600万円(同22%増)、経常利益9900万円(同8%増)となり、想定を上回る滑り出し。通期計画に対する進捗(しんちよく)率は売上高で28%、営業利益では34%となっている。製品別では「True Link+」「TV Suite」などが想定よりも販売好調で、第1四半期の売上高は計画を20%上回った」(Q)